

序論（素案）

1	総合計画の概要.....	1
	（1）役割.....	1
	（2）計画期間と構成.....	1
	（3）位置づけ.....	2
2	犬山市を取り巻く状況.....	3
	（1）社会情勢の変化.....	3
	（2）犬山市の現状.....	7

今後、市民アンケート調査結果の分析を踏まえて修正する予定

3	市民のまちづくりに対する意見.....	**
	（1）まちづくりに対する実感.....	**
	（2）まちづくりに向けた意見.....	**

今後、市民アンケート調査結果の分析を踏まえて修正する予定

4	まちづくりの主要課題.....	**
---	-----------------	----

1 総合計画の概要

(1) 役割

第6次犬山市総合計画は、長期的な市政の方向性を示し、市民と行政が主体的かつ計画的に取り組を進め、持続可能なまちを実現するために、次の3つの役割を担います。

市の最上位計画であり、犬山市政の道しるべとなる“市政の羅針盤”

市で取り組むすべての施策の基本となり、市が目指すまちの将来像を描き、その実現に向けた取り組みの方向性を指し示す「羅針盤」とします。

市民の参画と行政との協働による“まちづくりの行動指針”

市民と行政が協働の心を持ち、対話や交流を重ね、お互いの理解と共感に基づき協力してまちづくりを進めていくための共通目標や取り組みの方向性を示す「行動指針」とします。

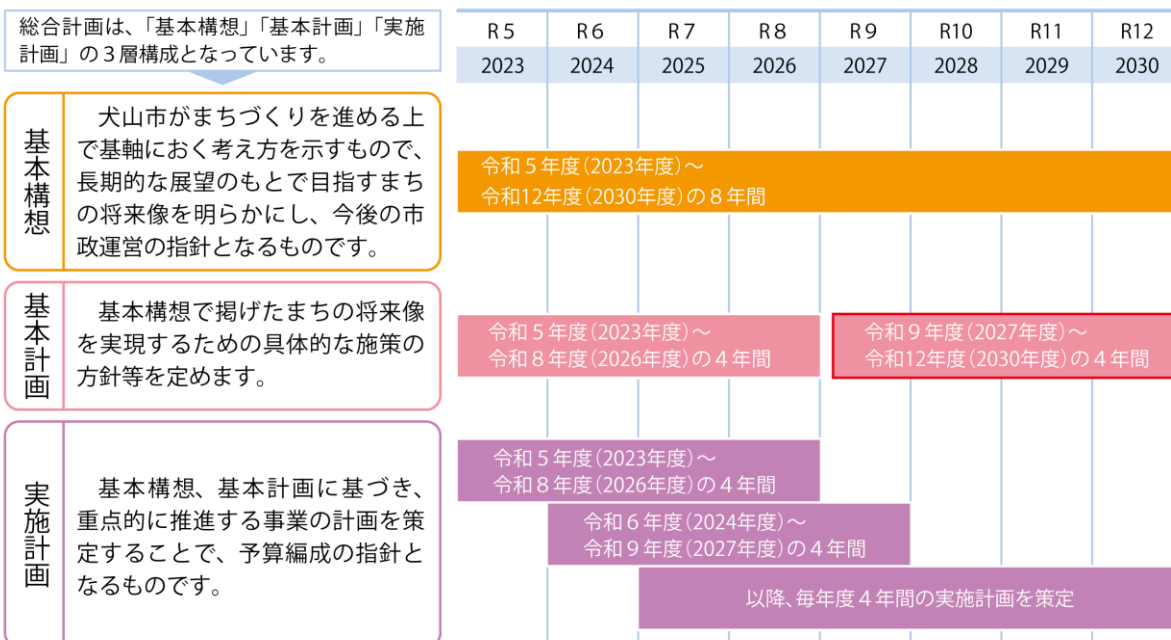
計画的なまちづくりの達成状況を測る“進行管理の基準”

計画の評価・検証など進行管理を行うため、具体的な目標と、その目標の達成度が確認できる指標と数値目標を定めた「進行管理の基準」とします。

(2) 計画期間と構成

第6次犬山市総合計画の計画期間は次のとおりです。本計画では近年の社会動向や市民意識の変化などを踏まえ、令和9(2027)～12(2030)年度の後期基本計画を策定します。

ただし、基本構想、基本計画、実施計画のいずれにおいても、社会情勢の変化などに対応するため、適時見直しを行います。



(3) 位置付け

かつては、地方自治法によって市町村に議会の議決を経て「基本構想」を策定することが義務付けられていましたが、平成 23（2011）年にその規定が廃止されました。犬山市では同年、「犬山市議会の議決すべき事件を定める条例」において議会の議決を経る事件として「基本構想」と「基本計画」を位置付け、さらに令和元（2019）年に「犬山市協働のまちづくり基本条例」を制定し、「基本構想」と「基本計画」を策定することを定めています。

「地方自治法第2条第4項（改正前）」

市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。

「犬山市議会の議決すべき事件を定める条例」

（議会の議決すべき事件）

第2条 議会の議決すべき事件は、次に掲げるとおりとします。

(1) 市行政全般に係る将来の目標を設定し、当該目標を達成するための施策、事業その他の手法を総合的かつ体系的に示した基本構想及び基本計画の策定又は変更（軽微なものを除く。）に関すること。

(2)～(3) 略

「犬山市協働のまちづくり基本条例」

（計画的な市政運営）

第20条 市長は、総合的かつ計画的な市政運営を図るための基本構想と基本計画（以下「総合計画」といいます。）を策定します。

2 市長は、総合計画の策定や見直しにあたっては、市民に参加の機会を保障します。

2 犬山市を取り巻く状況

(1) 社会情勢の変化

本格的な人口減少社会の到来

現在、日本社会は、本格的な人口減少社会の到来という歴史的転換期にあります。

日本の人口は、近年、減少局面を迎えており、平成 20（2008）年をピークに減少に転じています。出生数は、第 2 次ベビーブーム以降、減少傾向が続いており、合計特殊出生率は平成 27（2015）年には 1.45 まで緩やかに上昇したものの、令和 6（2024）年には 1.15 と過去最低となりました。我が国の少子化の主な要因は、女性人口の減少、未婚化と晩婚化（若い世代での未婚率の上昇や、初婚年齢の上昇）が進んでいます。

高齢化率を見ると、平成 2（1990）年には 12.1%でしたが、令和 2（2020）年では 28.6%に達しており、急激な高齢化が進行しています。2025（令和 7）年までにいわゆる団塊の世代が全て 75 歳以上となり、65 歳以上人口（高齢者数）のピークが続く一方、若い世代の人口減少も進む中で、2050（令和 32）年には、高齢化率は 37.1%に上昇、15～64 歳の生産年齢人口は 52.9%まで減少すると推計されています。

こうした人口構造の変化のなかで、生産年齢人口の減少を補い、超高齢社会への備えとなる高齢者や女性の就業率の上昇や多様な働き方への対応が求められています。また、年金や医療費などの社会保障費の増加や労働力の減少による経済成長の低下、地域活動の担い手不足によるコミュニティの弱体化など、地域経済や市民生活における様々な影響が懸念されています。

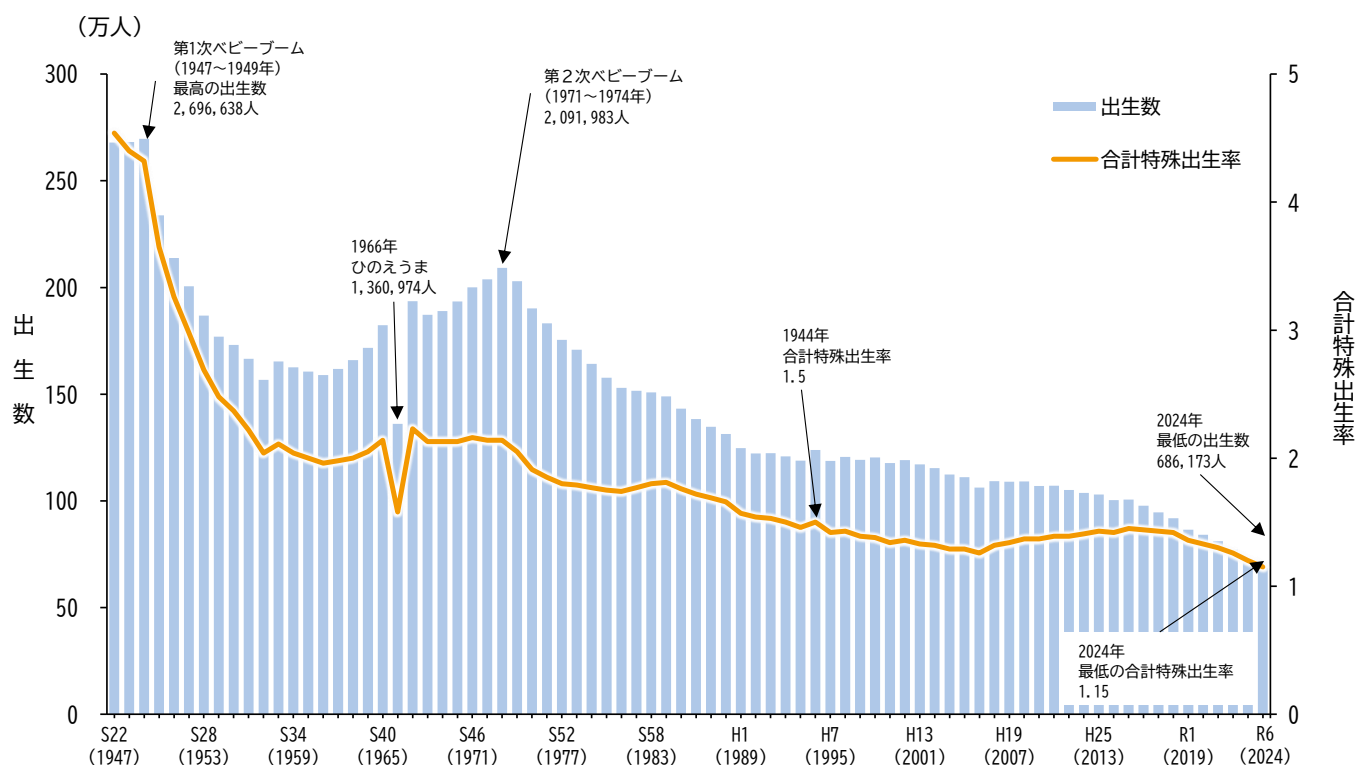


図 1-1 出生数・合計特殊出生率の推移

(資料：厚生労働省「人口動態統計（確定数）」)

人口の東京圏への一極集中

一都三県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）からなる東京圏への転入超過はコロナ禍の2020～22年は年平均9万人程度の転入超過にとどまりましたが、感染症が収束し、経済社会活動の正常化が進んだ令和5（2023）年には、再び東京圏への転入超過幅が拡大し、12万人を超える水準となっています。東京圏には全国から人口が流入していますが、特に名古屋圏と大阪圏からの流出傾向が続いています。男女別の転出入数を長期的にみると、平成22（2010）年以降は、東京圏への女性の転入超過数が1万人以上も男性を上回る傾向が続いており、入学・進学、就職をきっかけに20代前半が移動していることが示唆されています。

こうした地方から女性の東京圏への流出は、一部地域において未婚者の男女比に偏りを生じさせる要因ともなっていると考えられています。

子ども・若者を取り巻く状況の変化

子ども・若者を取り巻く状況は、児童虐待相談対応件数や不登校児童生徒数、いじめの重大事態発生件数は依然として高く推移しており、また、ヤングケアラーの社会的認知度の低さ、若者の非正規雇用割合は男女とも増加傾向にあるなど、子ども・若者を取り巻く状況は、年々深刻化・複雑化しています。これに対し国においては、令和5（2023）年に「こども家庭庁」を発足させ、同年には「こども大綱」を閣議決定し、全ての子ども・若者が、将来にわたって身体的・精神的・社会的に幸せな状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現をめざすこととしています。

働き方・生き方の多様化

人生100年時代の到来を背景に、就労期間の長期化や学び直しの需要の高まり、新型コロナ危機を契機にもたらされた場所や時間にとらわれない自由度の高い働き方などが進んでいます。今後、生産年齢人口の減少に伴い、女性や高齢者などの活躍がますます求められるとともに、様々な国籍の外国人材の受入れが一層進んでいくことが予想されます。

また、LGBTQなど性の多様性が広く認識されるようになり、自分らしい生き方を求める人が増えていくと考えられます。

これからの時代においては、様々な背景を持つ人が、多様な働き方、暮らし方、価値観などを選択することがますます進んでいくと考えられます。

技術革新による社会の変化

誰一人取り残されることなく、多様な幸せが実現できる社会を目指し、令和3（2021）年にデジタル庁が創設され、行政のデジタル改革を推進し、「生活」「事業・地域」「行政」の各領域に大きな変化をもたらしました。今後はデジタルファーストをさらに発展させ、AI・データを最大限に活用する行政組織へ強化していくことが求められています。

安全・安心の気運の高まり

南海トラフ地震は、30 年以内の発生確率が **60～90%程度**とされており、犬山市における想定震度は、「5 弱～5 強」（「**過去地震最大モデル**」より。「**理論上最大想定モデル**」では「5 弱～6 弱」）とされています。加えて、気候変動の影響もあり日本各地で台風や大雨による水災害の頻発化、激甚化する災害から、**国民の生命・財産・暮らしを守り、国家・社会の重要な機能を維持するため、これまでの災害等の教訓を踏まえつつ、国土強靱化施策の更なる加速化・深化を図る必要があります。**

地球環境問題への国際的な取組の進展

気候変動問題、海洋プラスチックごみ問題、生物多様性の損失といった地球規模での環境問題への取組みが、各国で進められています。

国際連合では、平成 27（2015）年 9 月に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、世界が取り組むべき持続可能な開発目標「SDGs（Sustainable Development Goals）」を掲げました。この中では、エネルギー問題や気候変動対策などとともに、貧困やジェンダーの問題、製造・消費の責任、海・陸の豊かさを守るなど、複数の課題の統合的な解決を目指すことが求められています。

また、政府では、令和 2（2020）年に令和 32（2050）年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。

令和 4（2022）年には「**昆明・モンテリオール生物多様性枠組**」が採択され、生物多様性の損失を食い止め回復させる「**ネイチャーポジティブ**」の実現に向けた取組みが世界的に進められています。さらに、プラスチック汚染に関する国際条約の策定に向けた議論や、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行、ESG 投資の拡大など、環境・経済・社会の統合的な持続可能性を目指す動きが加速しています。

地域経済を取り巻く社会情勢の変化

日本の経済状況は、国際的な紛争や情勢の不安定化に伴うエネルギー価格の高騰などの影響により、食料品を中心とする物価上昇に賃金上昇が追い付かず、人々の暮らし向きは経済的に圧迫されています。雇用と所得を増やし、潜在成長率を引き上げる「強い経済」の実現が求められています。

社会インフラの老朽化

日本の道路、橋、上下水道などの都市基盤施設、学校といった公共施設等の社会インフラは、高度経済成長期に集中的に整備されたことから、今後 20 年間で建設後 50 年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる見込みであり、建替えや改修の時期を一斉に迎えることによる費用負担の増大などが懸念されています。

社会インフラのメンテナンスにあたっては、施設の「事後保全」から新技術を積極的に導入し「予防保全」への適切な切替えや、統廃合・複合化の推進による保有施設総量の適正化など、自治体の技術系職員に限られるなかで、効果的・効率的にマネジメントしていくことが求められています。

(2) 犬山市の現状

①人口

総人口

犬山市の人口は、平成 21（2009）年をピークに増加から減少に転じており、今後も減少が続くと推計されています。

一方で、外国人市民は増加しています。新型コロナウイルス感染症防止のための渡航制限により、短期的な見通しは不透明ですが、中長期的に見れば、今後も外国人市民は増加していくものと考えられます。

少子・高齢化の進行

犬山市の年齢 3 区分別人口の推移を見ると、年少人口割合、生産年齢人口割合は減少していますが、高齢者人口割合（高齢化率）は増加が続いており、今後、令和 28（2046）～33（2051）年までは、少子高齢化が進行すると推計されています。

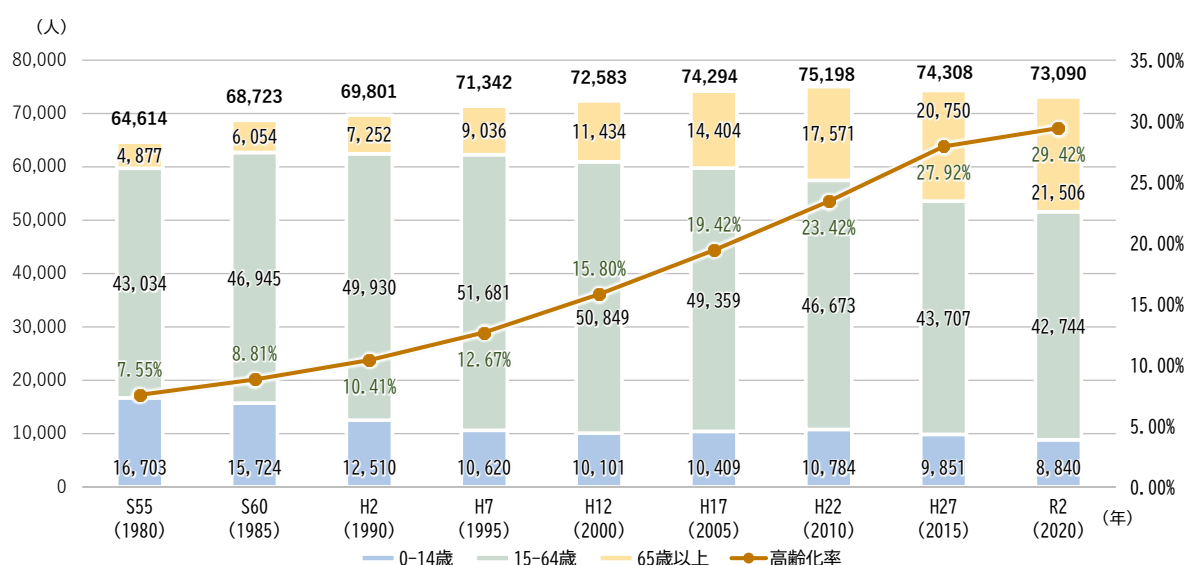


図 1-2 年齢 3 区分別人口の推移

（資料：総務省統計局「国勢調査」）

人口動態

犬山市の人口減少の背景を見ると、近年では転入者数が転出者数を上回っているものの、死亡数が出生数を上回っており、全体では人口減少が続いています。

自然増減

長期間で傾向を見ると、死亡数は増加傾向、出生数は減少傾向となっていました。平成20（2008）年頃までは、出生数が死亡数を上回っていました。しかし、その後は、死亡数が出生数を上回る自然減に転じています。少子高齢化などのますますの進行により、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

なお、出生数の減少については、少子高齢化による子どもを産む世代の減少に加え、未婚率の上昇や、晩婚化、晩産化、子どもを産まない選択をする夫婦が増えていることもその背景だと考えられます。

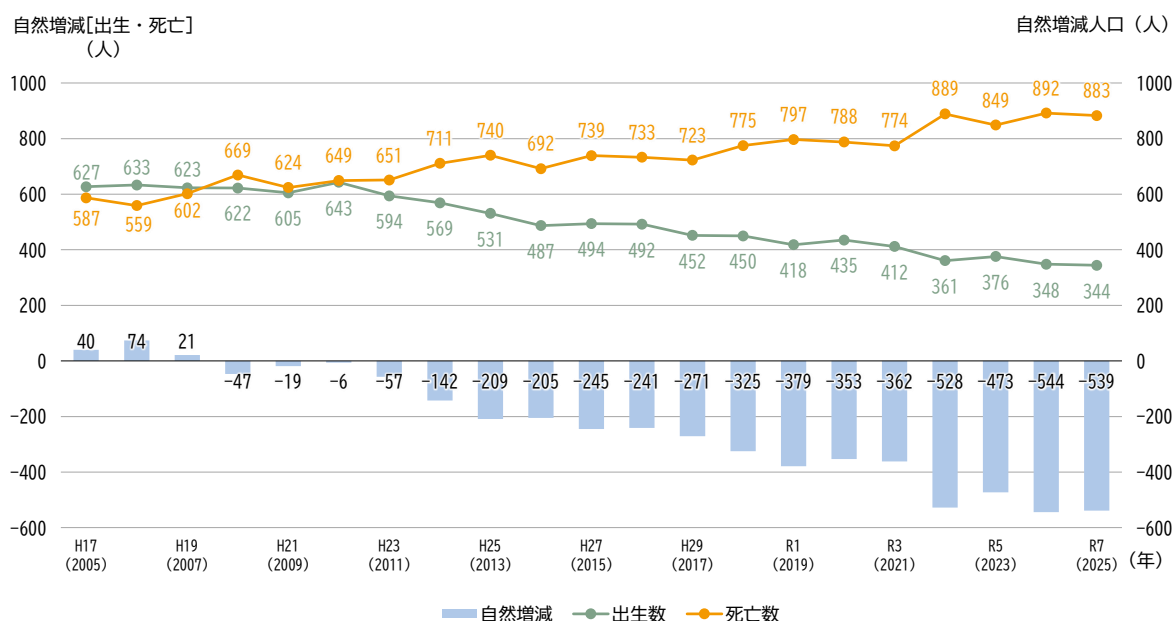


図 1-3 人口動態[自然増減]

（資料：犬山市市民課データ）

社会移動

平成 24（2012）年から平成 26（2014）年にかけては、転出者数が転入者数を上回っていましたが、近年では転入者数が転出者数を上回る傾向となっています。令和 2（2020）年については、転出者数の方が多くなっていますが、これは、新型コロナウイルス感染拡大を背景とした外国人転入者の減少に起因するものとなっています。新型コロナウイルス感染症の影響が収束した令和 5（2023）年から令和 6（2024）年では経済社会活動の正常化が進んだことで、進学や就職、転勤等による東京圏への人口移動が再び活発化し、転出者数の方が多くなっていると考えられます。

性別・年代別に見ると、男性では 15～24 歳では転入が多くなっていますが、25～34 歳では転出が多くなっています。女性では 15～34 歳までの転出が多くなっています。

転入元、転出先を見ると、名古屋市及び近隣市町への転出入が多くなっていますが、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）への移動も一定の割合を占めています。

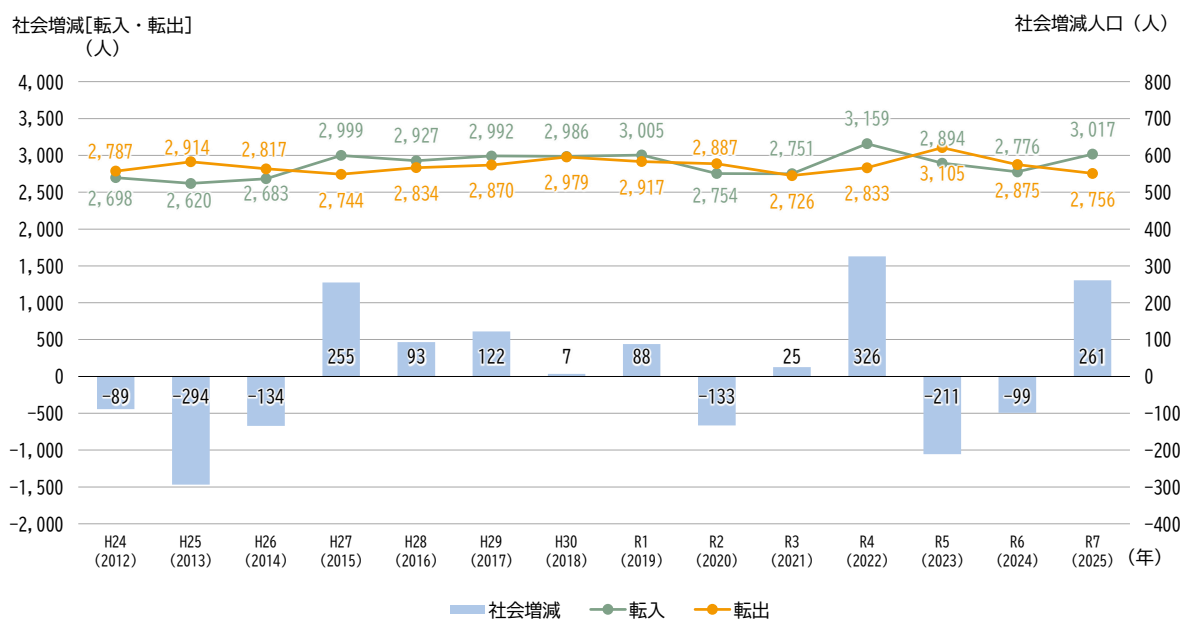
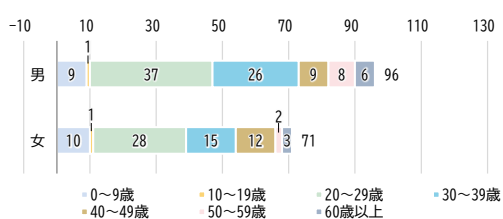


図 1-4 人口動態[社会増減]

（資料：犬山市市民課データ）



一都三県からの転入



一都三県への転出

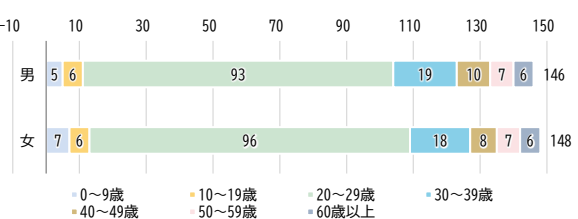


図 1-5 転入元・転出先の状況 (R7 (2025))

(資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」)

②都市構造

犬山市の西部は、木曽川扇状地の頂上部にあり、標高 30～50mの沖積低地と段丘地域（台地）からなっています。東部に広がる丘陵地は、飛騨木曽川国定公園の一部となっており、豊かな自然が残されています。

市内には3つの鉄道路線、7つの鉄道駅があり、市西部にある鉄道駅周辺を中心に市街化が図られてきました。

住宅地

市街化区域では、犬山駅や犬山遊園駅、犬山口駅、羽黒駅、楽田駅周辺において住宅系の利用が誘導されており、住宅の建設や区画整理事業などの宅地開発が実施されてきました。市街化調整区域では、城東地区、池野地区にある昔からの集落が存続するとともに、自然との調和を図りながら大規模住宅開発が実施されてきました。

産業用地

農業用地

市街化調整区域内における農業生産基盤整備事業が実施された場所を中心に、農業振興地域内農用地として位置付け、農業振興を図っています。

商業用地

市街化区域では犬山駅、犬山遊園駅、犬山口駅、羽黒駅、楽田駅といった市西部にある鉄道駅周辺の幹線道路沿いや犬山城下町地区や木曽川河畔の内田地区において、商業系の利用が誘導されています。市街化調整区域では、いくつかの路線を商業集積ラインとして位置付け、商業系施設の誘導を図っています。

工業用地

昭和初期に進出した紡績工場に加え、昭和 30 年代以降の積極的な企業誘致により、大規模工場が市内各地に立地しています。また、楽田地区にある愛知県が造成した2箇所の工業団地では、比較的大規模な事業所が集積しています。

③産業

市内の産業構造を見ると、従業員数、付加価値額の面で製造業が最も多いことから、製造業を犬山市の基幹産業といえます。

農業

犬山市の農業産出額（推計）を見ると、米が一番多く全体の約5割を占め、次に果実が多くなっています。農業従事者は減少するとともに、高齢化が進んでいます。また、経営耕地面積も減少傾向にあります。

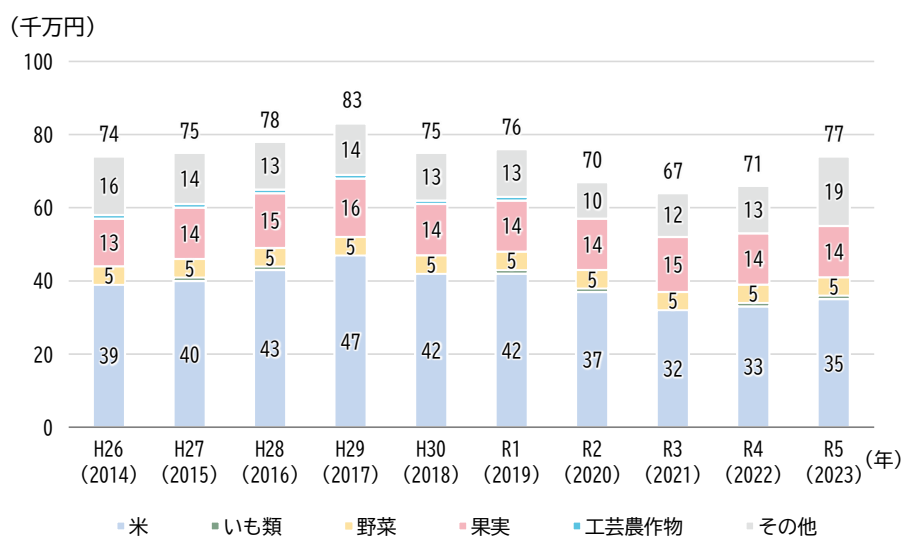


図 1-7 部門別農業産出額の推移

(資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」)

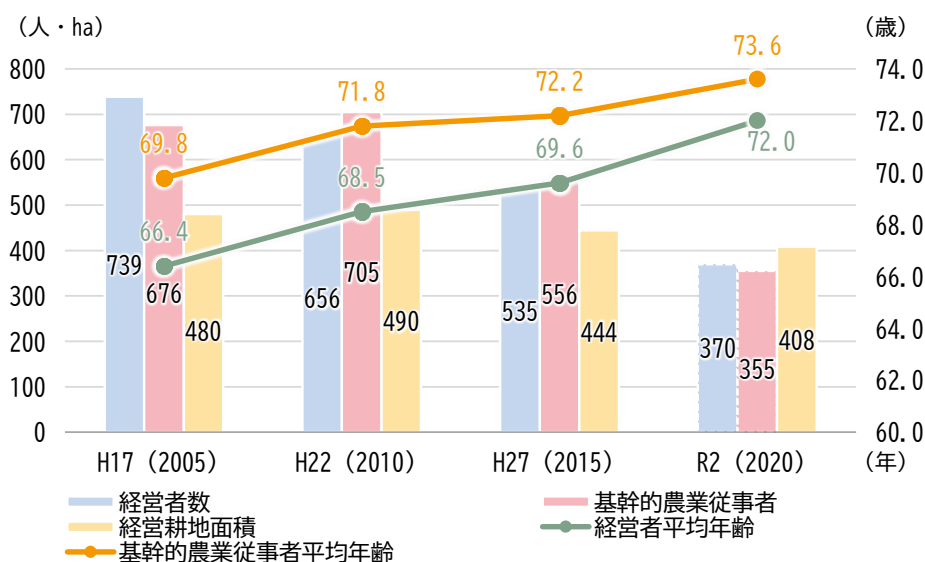


図 1-8 農業従事者、経営耕地の状況の推移

※農業経営者：当該農家の農業経営に責任を持つ者をいい、農作業に従事せず作業等の指示を行うだけのものも含める。

農業就業人口：農業従事者のうち、農業を主として従事した世帯員。

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

商業（小売業）

犬山市と近隣市町を比較すると、事業所数、従業者数、年間商品販売額、売り場面積のいずれも下位に位置しています。令和元(2019)年に実施した買い物に関するアンケートでは、市外で買い物をしている人の割合が高く、消費が犬山市外へ流出しています。また、各種市民意識調査等では、商業施設を望む声が多くありました。

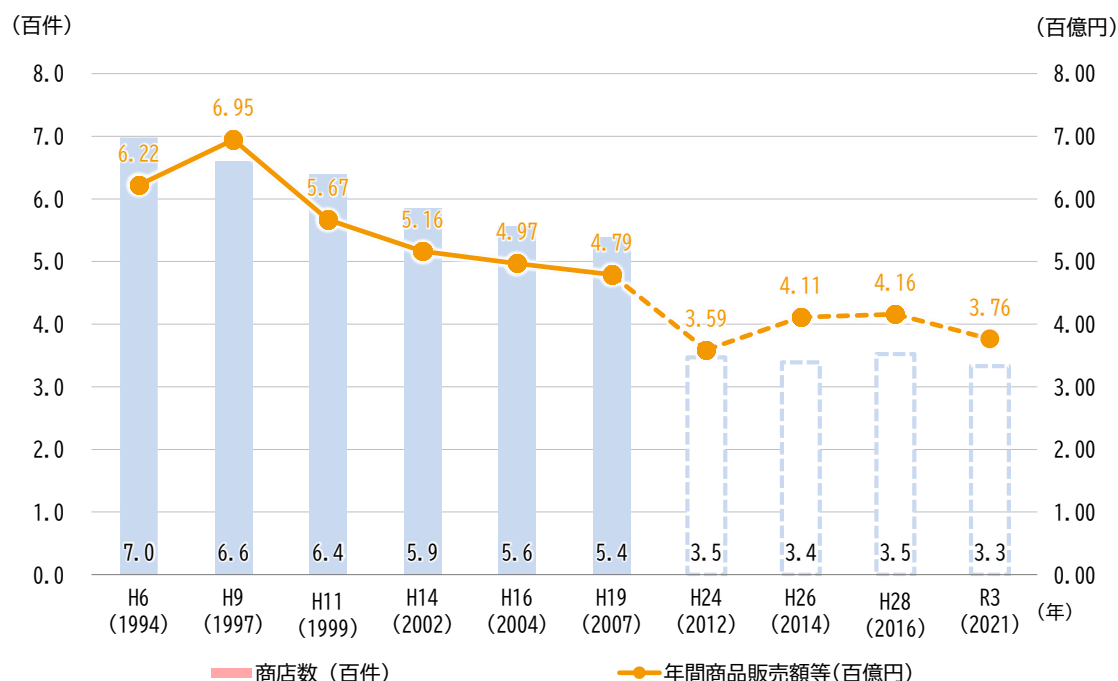


図 1-9 小売業の商店数、従業員数、年間商品販売額等の推移

※平成 26（2014）年調査は、日本標準産業分類の第 12 回改訂および調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、前回実施の平成 19（2007）年調査の数値とは接続しない。また平成 24（2012）年、平成 28（2016）年データは経済センサスによるもので、他の年の商業統計調査と集計対象が異なっている。

（資料：経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」）

表 1-1 小売業の商店数、従業員数、年間商品販売額【自治体間比較】（R3（2021））

	事業所数(件)	従業員数(人)	年間商品販売額(万円)	小売面積(㎡)
犬山市	333	2,386	37,605	35,622
一宮市	1,968	16,834	357,653	362,069
春日井市	1,269	13,394	275,952	293,375
江南市	465	4,124	78,680	120,634
小牧市	696	8,292	183,359	213,239
稲沢市	633	6,447	133,177	208,193
岩倉市	198	1,883	36,790	39,321
大口町	105	1,231	27,179	40,575
扶桑町	181	2,000	34,184	44,546
可児市	482	4,983	103,526	177,681
各務原市	917	8,516	163,117	227,903

（資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」）

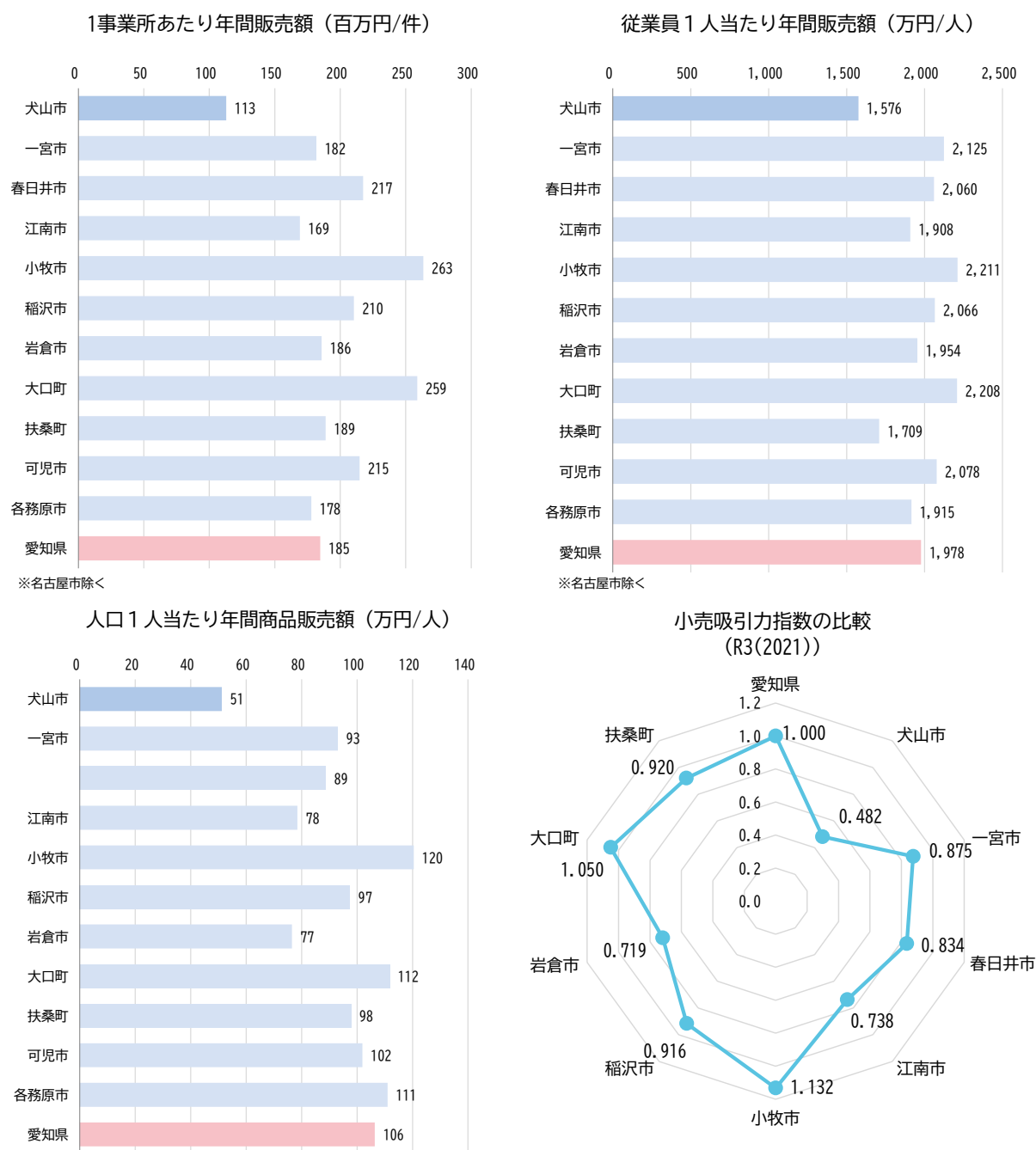


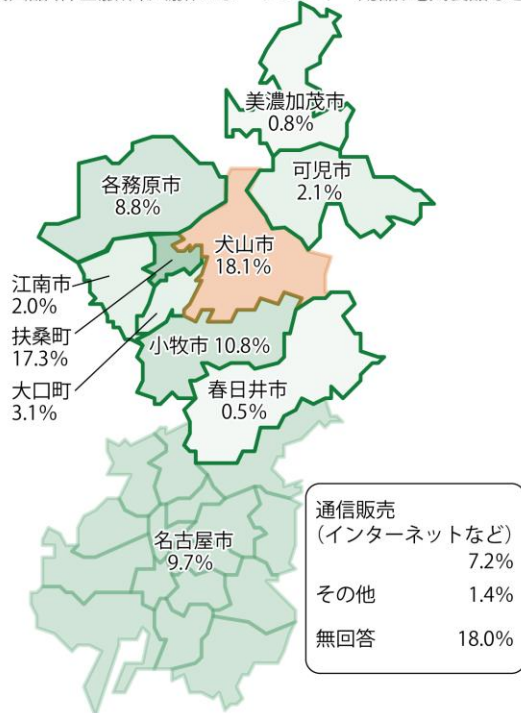
図 1-10 小売業の1事業所当たり年間販売額、従業員1人当たり年間販売額、
人口1人当たり年間商品販売額、小売吸引力【自治体間比較】（R3（2021））

※小売吸引力とは、各市人口1人当たり販売額を県の人口1人当たり販売額で除した値。地域が買い物客を引き付ける力を現す指標で、指数が1以上の場合は、買い物客を外部から引き付け、1未満の場合は、外部に流出しているとみることができる。

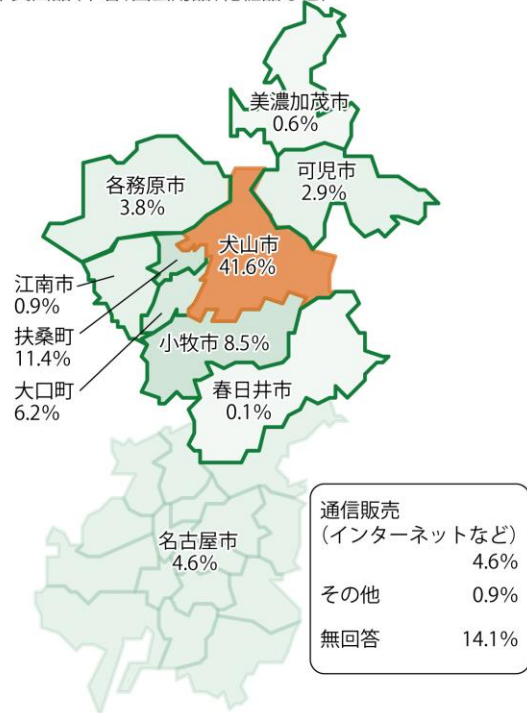
（資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」、愛知県「あいちの人口」、岐阜県「岐阜県の人口」）

2019年買い物アンケート結果
(買い物は主にどこでしますか?)

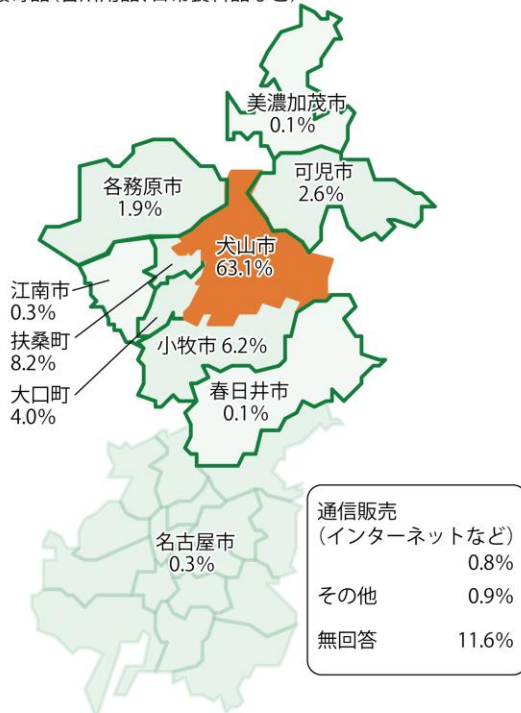
A.買回品(紳士服、婦人服、スポーツレジャー用品、電気製品など)



B.準買回品(下着、園芸用品、化粧品など)



A.最寄品(台所用品、日常食料品など)



B.贈答品(お中元、お歳暮、結婚祝、出産祝など)

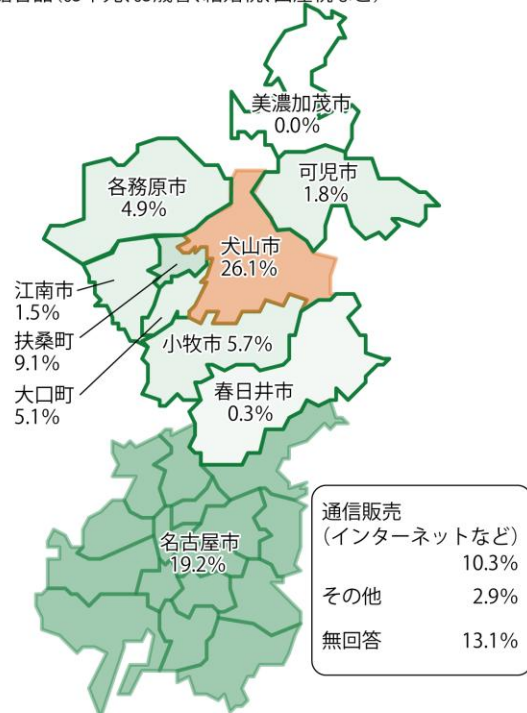


図 1-11 買い物について (R1 (2019))

(資料：令和元年「犬山市民意識調査」)

工業

リーマンショックや東日本大震災などの社会情勢に影響を受けながらも、着実に製造品出荷額は伸びており、近隣市町と比較しても中位に位置しています。

業種別に見ると、特に生産用機械器具の占める割合が高くなっています。

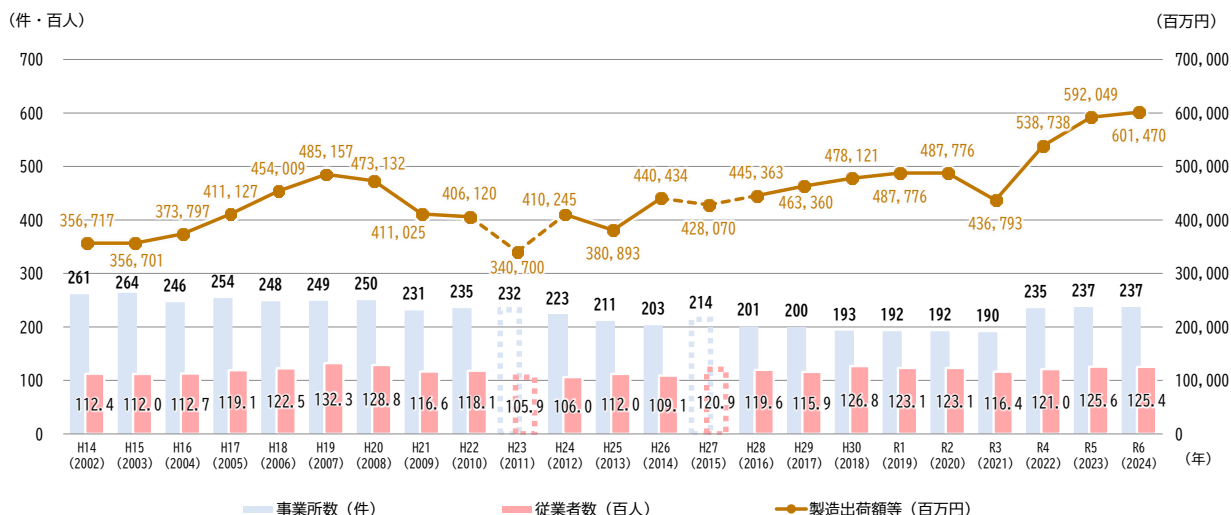


図 1-12 事業所数・従事者数・製造品出荷額等の推移

※1 平成 23(2011)年の数値は平成 24 (2012) 年経済センサス、平成 27(2015)年の数値は平成 28 (2016) 年経済センサスによるものであり、工業統計調査との時系列比較の参考にするための数値。

※2 事業所数及び従事者数について、平成 23 (2011) 年は平成 24 (2012) 年 2 月 1 日現在、平成 27 (2015) 年から令和元 (2019) 年は翌年の 6 月 1 日現在、その他の年次は同じ年の 12 月 31 日現在の数値。

(資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)

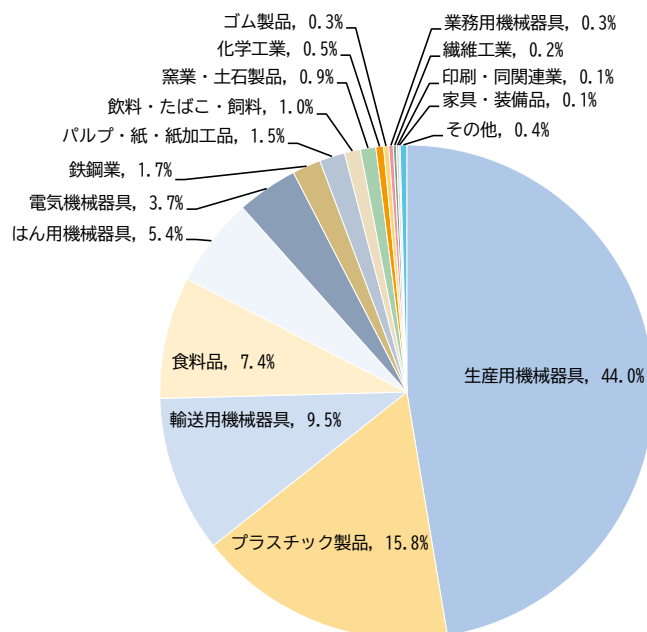


図 1-13 製造品出荷額の構成比 (R5 (2023))

(資料：経済産業省「工業統計調査」)

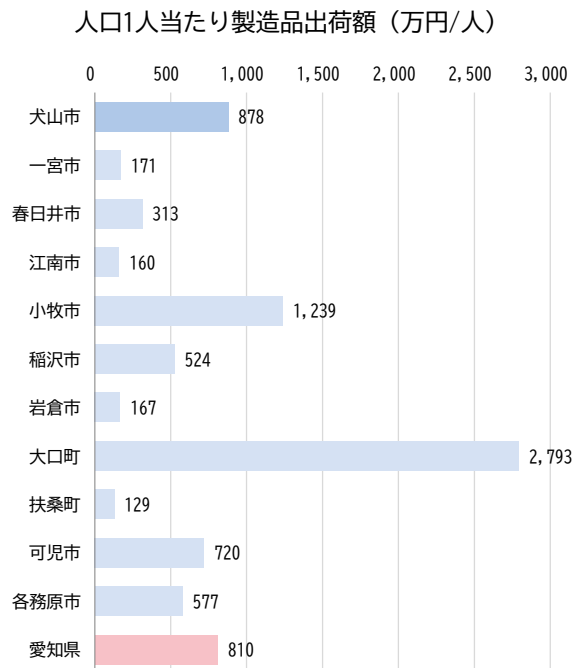
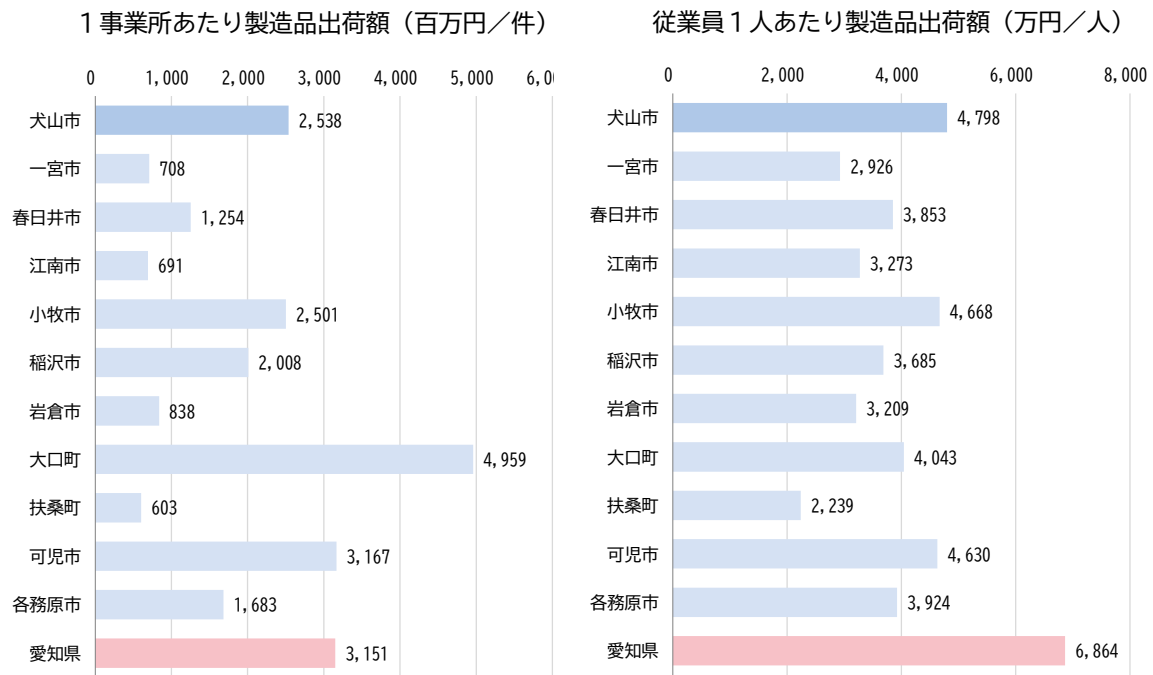


図 1-14 1 事業所数当たり製造品出荷額等・従業員 1 人当たり製造品出荷額等・
人口 1 人当たり製造品出荷額【自治体間比較】(R6 (2024))

(資料：総務省「経済構造実態調査」)

観光

犬山市の観光入込客数は、平成 27（2015）年の約 565 万人から令和元（2019）年の約 563 万人と約 550 万人を上回っていましたが、令和 3（2021）年には新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約 316 万人まで落ち込みました。新型コロナウイルス感染症の影響が収束後においては、本市を代表する国宝犬山城の登城者数は伸びており、令和 7（2025）年では過去最高の約 69 万人となっています。

過去 10 年間の宿泊者数の推移も同様に、一時は落ち込みましたが、令和 7（2025）年では約 21 万人と増加しており、特に外国人宿泊者数は急激に伸びています。

観光客の消費額は、観光が盛んな他都市と比べて、やや低くなっています。

表 1-2 観光入込客数統計

1. 入場者数	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
国宝犬山城	533,337	543,224	573,034	618,949	590,344	263,923	288,940	444,496	582,447	652,385	692,852
犬山市文化史料館	111,150	116,200	108,561	117,775	99,363	33,921	32,246	49,993	64,034	72,901	68,044
犬山焼き見学	786	654	693	758	651	209	574	686	587	2,531	4,092
どんでん館	52,094	59,004	63,882	64,372	58,498	21,482	23,687	39,357	50,407	52,391	58,302
木曾川うかい	23,807	24,183	25,724	21,225	19,376	3,079	3,631	13,750	16,722	17,538	17,153
日本ライン下り (R3 犬山遊覧船)	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0
世界のオルゴール館	7,370	245	0	0	0	0	5,820	5,949	3,836	4,664	3,574
博物館明治村	596,250	508,670	512,320	520,531	517,363	304,061	365,540	412,665	400,995	418,744	398,004
リトルワールド	491,000	505,627	489,167	451,147	458,892	274,737	311,107	347,760	394,213	363,473	391,362
日本モンキーセンター	132,354	137,545	112,878	111,061	108,030	67,947	83,570	91,354	80,687	78,221	71,039
日本モンキーパーク	486,565	506,485	512,226	551,106	516,423	219,501	276,875	366,698	437,844	460,447	415,188
有楽苑（国宝茶室如庵）	44,196	44,104	43,643	47,535	6,353	0	0	33,249	52,213	59,174	62,926
犬山カンツリー倶楽部	42,765	42,382	43,388	42,894	45,745	44,227	47,291	47,210	47,175	45,727	43,816
お菓子の城	121,424	155,841	86,369	70,403	123,746	13,006	20,907	35,213	53,852	65,073	60,043
ドッグリゾート犬山	4,362	4,519	3,445	-	-	-	-	-	-	-	-
入場者数 合計	2,647,460	2,648,683	2,575,330	2,617,756	2,544,784	1,246,093	1,460,188	1,888,380	2,185,012	2,293,269	2,286,395

2. 推定人数	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
姫の宮豊年祭	50,000	6,700	50,000	50,000	45,000	0	0	0	0	0	0
犬山祭	240,000	330,000	480,000	430,000	410,000	0	0	0	0	0	0
石上げ祭	11,000	10,000	7,800	3,500	7,200	0	0	2,800	3,500	3,700	3,500
あゆまつり	1,000	1,500	608	1,500	3,500	350	0	700	200	1,000	200
日本ライン夏まつり	230,000	230,000	230,000	210,000	240,000	0	0	27,876	51,874	58,222	50,431
城下町秋まつり (秋のお城まつり)	12,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
成田山名古屋別院	1,652,400	1,654,000	1,649,900	1,632,800	1,617,400	1,586,100	976,700	1,064,000	1,119,800	947,500	997,100
大縣神社	545,600	556,000	572,700	540,800	549,300	441,668	570,000	608,800	600,700	607,000	615,434
尾張富士大宮浅間神社	110,300	129,900	122,100	97,200	95,900	69,900	64,800	86,800	93,100	92,800	93,600
入鹿池	32,100	31,100	29,950	28,100	27,550	22,250	33,350	42,300	46,200	42,300	32,660
桃太郎神社	63,270	70,770	61,200	62,574	56,880	53,328	43,600	44,990	37,011	37,574	33,510
八曾自然休養林（キャンプ場）	28,637	26,293	22,682	25,442	22,472	0	4,354	5,859	6,457	5,506	0
八曾ます釣り場	7,494	5,888	4,044	3,454	3,687	4,600	5,040	4,204	3,960	3,500	3,324
アウトドアベース今井	21,378	18,818	15,760	16,369	8,817	0	0	0	0	0	0
推定人数 合計	3,005,179	3,070,969	3,246,744	3,101,739	3,087,706	2,178,196	1,697,844	1,888,329	1,962,802	1,799,102	1,829,759
総 計	5,652,639	5,719,652	5,822,074	5,719,495	5,632,490	3,424,289	3,158,032	3,776,709	4,147,814	4,092,371	4,116,154

※ 入場者数は各施設の統計値。推定人数は各施設や催事の主催者からの申告による推定人数を計上。

※ 有楽苑は建造物などの保存修理工事のため、令和元（2019）年 3 月 1 日から令和 4（2022）年 2 月 末まで公開を休止。

※令和 2（2020）年と令和 3（2021）年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一部イベントが中止。
（資料：犬山市観光課データ）

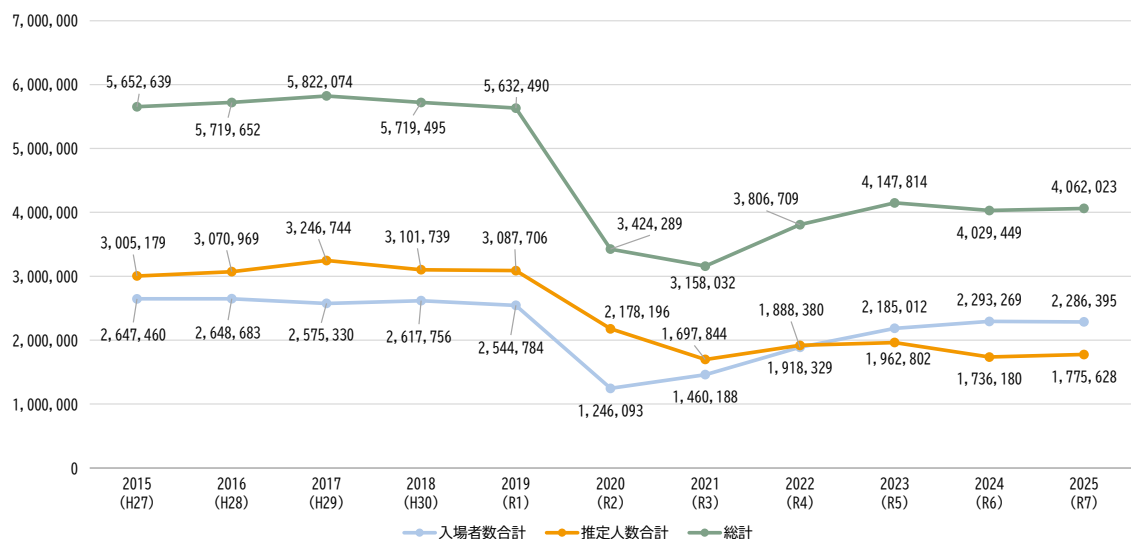


図 1-15 観光入込客数の推移

(資料：愛知県観光コンベンション局「観光入込客統計」)

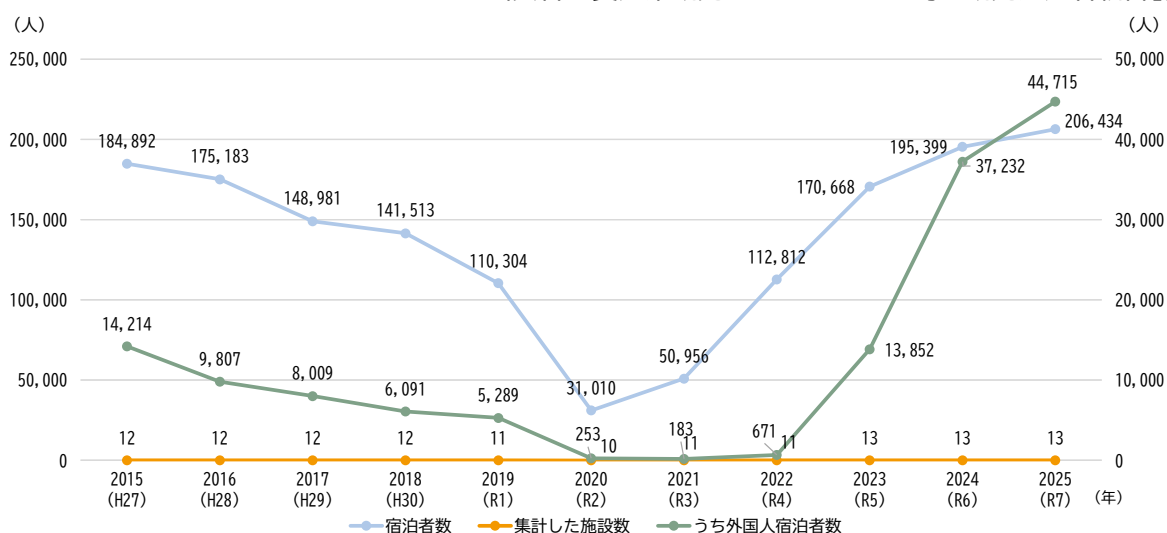


図 1-16 犬山市内宿泊者数の推移

(資料：犬山市観光課データ)

表 1-3 犬山市と他都市の日帰り・宿泊比率及び単価の比較

都市名	日帰り(%)	日帰り客単価(円)	宿泊(%)	宿泊客単価(円)	備考
犬山市	95.2	4,936	4.8	26,692	令和6(2024)年度
川越市	91.6	6,614	8.4	39,641	令和6(2024)年度
鎌倉市	96.7	7,638	3.1	30,865	令和6(2024)年度
彦根市	81.4	5,819	18.6	24,927	令和6(2024)年度
名古屋市	80.5	市内: 3,763 市外: 8,929	19.5	47,364	令和6(2024)年度
高山市	49.1	13,584	50.9	39,955	令和6(2024)年度
伊勢市	87.7	83,71	12.3	26,908	令和6(2024)年度

(資料：犬山市観光課データ)

就労構造

市内で働く市民の割合は就業者全体の 42.2%となっています。これは近隣自治体と比較しても低く、労働力が市外に流出しています。市外で働く場所としては、小牧市、名古屋市、大口町の順に多くなっています。なお、市外から犬山市へ働きに来る人は、小牧市、各務原市、可児市の順に多くなっています。

市内で働く人の性別をみると、男性が 64.8%となっており、市内従業者数の多くを占める製造業における男女比の偏りが反映されているものと考えられます。

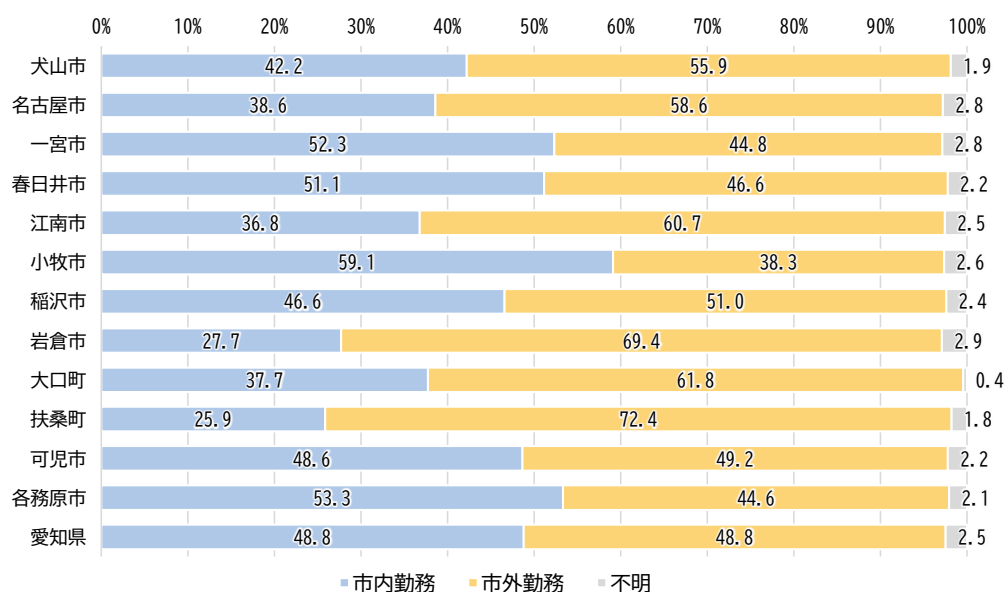


図 1-17 就業者の勤務地の割合【自治体間比較】(R2 (2020))

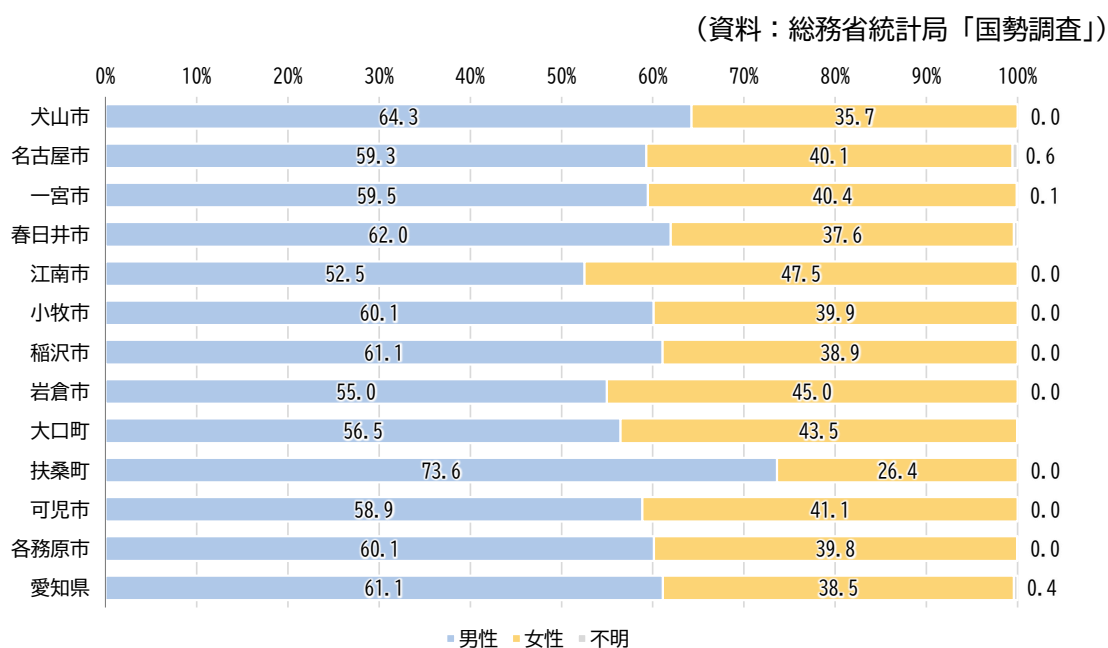


図 1-18 従業者の性別比【自治体間比較】(R3 (2021))

(資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)

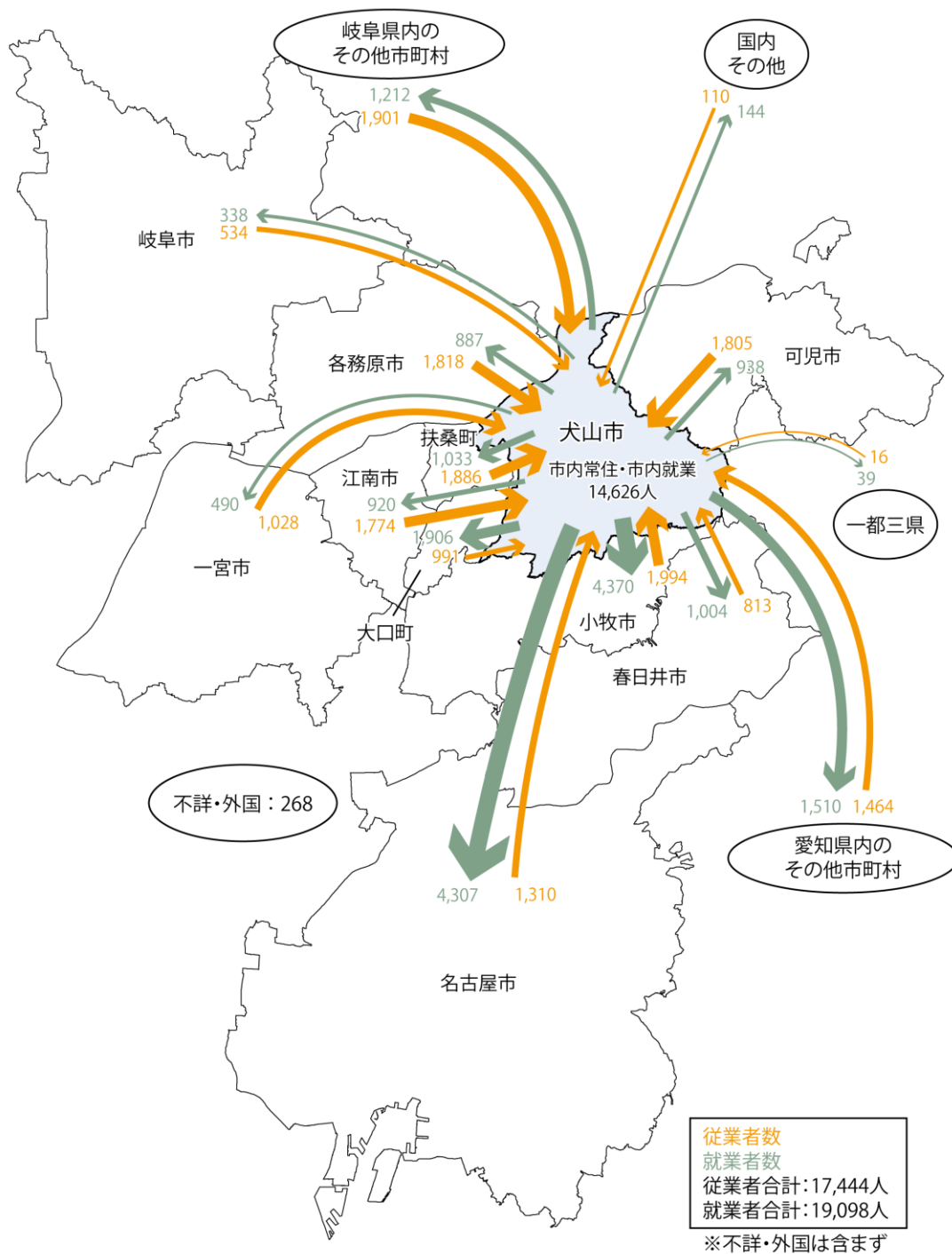


図1-19 従業先・就業先の状況 (R2 (2020))

(資料：総務省統計局「国勢調査」)

④環境

自然との共生

犬山市の豊かな自然は、多くの市民に親しまれています。中でも、東部丘陵に代表される里山環境は、水と緑に恵まれた犬山市の特性を形づくる重要な要素となっています。

市内には国指定天然記念物のヒトツバタゴ自生地などをはじめとする希少な動植物の生息・生育が確認されている一方で、特定外来生物が増加しています。

ごみの排出量

犬山市におけるごみの年間総排出量を見ると、平成 27 年度（2015 年度）以降は減少傾向となっており、令和 6 年度（2024 年度）における年間総排出量は約 19,000 t となっています。同年度における 1 人 1 日当たりのごみの量は 747 g / 人・日で、これは県内 54 市町村の中で 22 番目に少なく、1 人 1 日当たりの家庭系ごみの量は 509 g / 人・日で、県内市町村の中で 6 番目に少ない数字となっています。

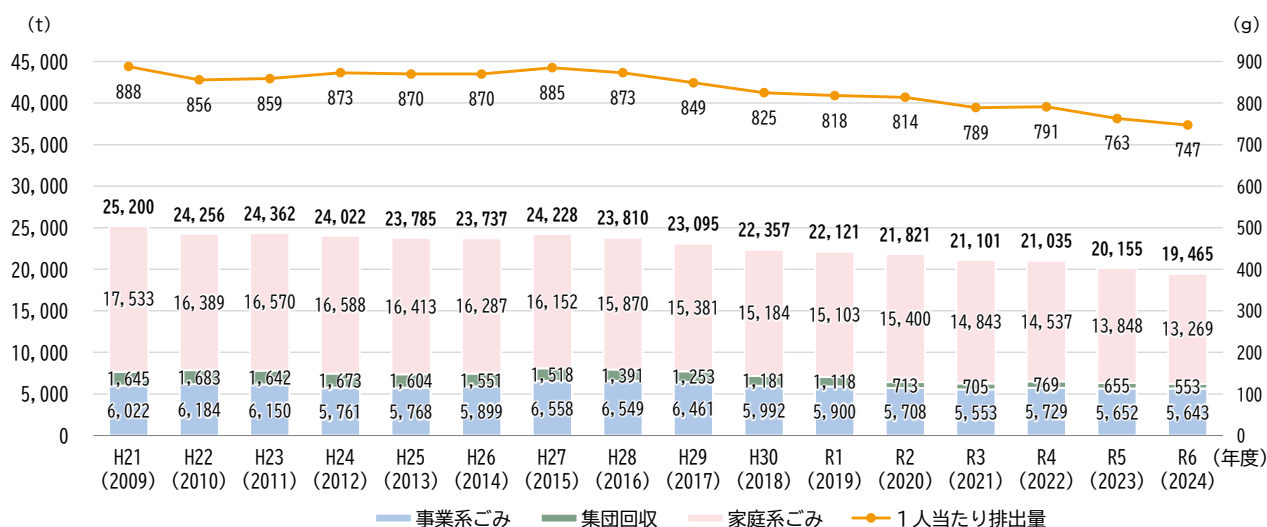


図 1-20 ごみ排出量の推移

(資料：愛知県「一般廃棄物処理事業実態調査」)

温室効果ガスの排出量

犬山市から排出される温室効果ガス排出量の総量は、近年では減少傾向にあり、**令和5年度（2023年度）**における排出量総量は**560千t-CO₂**と推計されています。分野別に見ると、産業部門が**312千t-CO₂**（約56%）、家庭部門が**69千t-CO₂**（約12%）、運輸部門が**100千t-CO₂**（約18%）と推計されており、全国平均や愛知県平均よりも産業部門が占める割合が高いとされています。

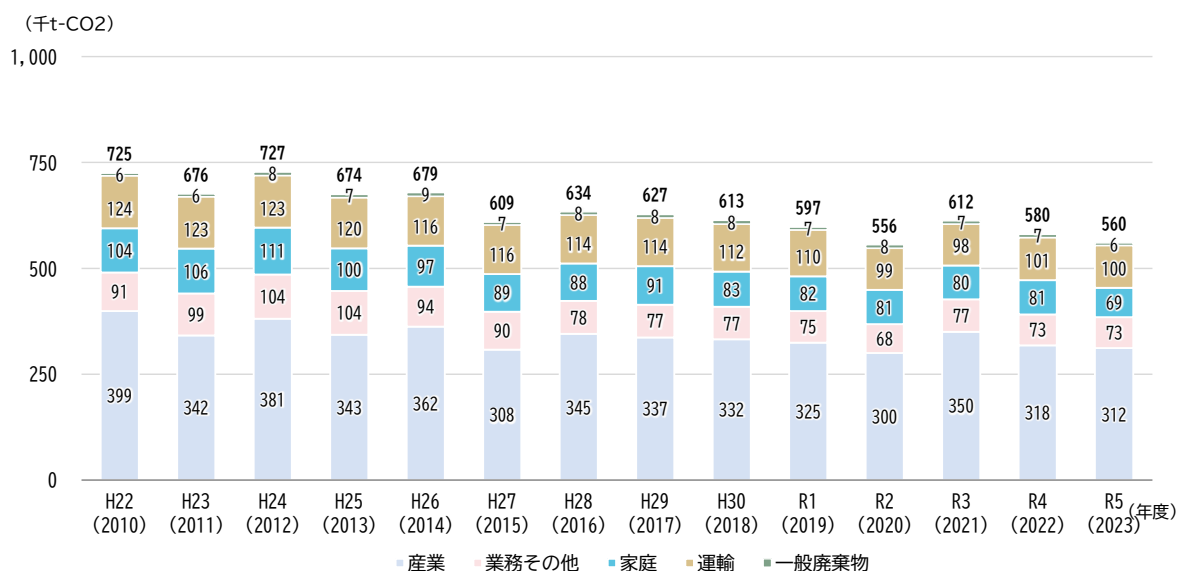


図 1-21 温室効果ガスの排出量の推移

(資料：環境省「地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト」)

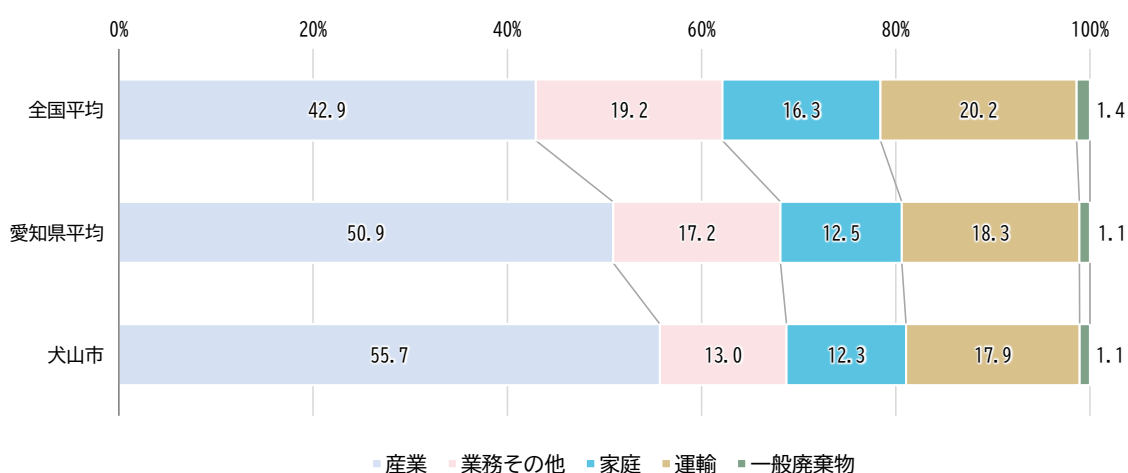


図 1-22 温室効果ガス排出量構成比の比較 (R5 (2023))

(資料：環境省「地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト」)